

11 期 畔山 宏次

はじめに、2017 年の 11 期会は 11 月 13 日～の開催のため、前号の「やまざと Vol. 32」に間に合わず、今 Vol. 33 に掲載となったことをお知らせします。

- ・参加者：井上和子、森川功、畔山宏次・知栄子、加藤忠好・智美、青柳健二、杉森和義・悦子、片田寛、向沖継・幸子、窪田安英、北川邦夫、長岡正利、上村人史 計 16 名（下線ゲスト）
- ・実施日：2017 年 11 月 13 日（月）～14 日（火）
- ・会 場：和歌山県伊都郡高野町高野山

宿坊・西禅院（壇上伽藍ちかく）

およそ 1200 年前に弘法大師・空海が開いた高野山へは、大阪の難波駅から南海電車とケーブルカーを乗り継いで約 2 時間で到着する。しかし、台風 21 号の影響により電車の最奥部が不通となり、途中の橋本駅（和歌山県）からバスでの代行運転となった。そのため 1 時間近く所要時間が増えて、参加された方々には不便を掛けた。

ここ高野山は標高およそ 900m の山上の盆地にあり、真言宗総本山の聖地である壇上伽藍や、弘法大師御廟のある奥之院は下界とは違う空気を感じる不思議な場所である。

11 月 13 日

快晴、紅葉が期待できそう。今夜は壇上伽藍の近くの宿坊「西禅院」に予約を入れてある。ここは午後 0 時以降なら部屋に荷物を置かせてもらえる気楽な所で、1 時過ぎに第一陣の 8 名が集ってきた。



むかし、高野山にお参りする人々は参道脇に建てられた町石に彫られた数を頼りに登った。出発地の慈尊院は空海により建造され、この地までし

か入れなかった母親を想い弥勒菩薩を安置し、以来「女人高野」とも呼ばれている。この慈尊院を「百八十町」として標高差 750m、距離約 21km を 7 時間近く登ると「一町」の壇上伽藍の根本大塔に至る。古の人はカウントダウンの数字に励まされ登ったのであろう。我々は車の助けにより 45 分程度で上がることができる。この大塔を見上げた時の古人の感動の大きさは、きっと我々の感動の比ではないだろう。



空海が真言密教の根本道場のシンボルとして位置づけたことから根本大塔（こんぽんだいとう）と呼ばれ、高野山の象徴でもある。この近くに「三鈷の松」と呼ばれる松がある。松の葉は多くは二葉であるが、この松からは三葉がわずかに落ちている。この三葉を財布に入れておくと幸せになり、お金が貯まるといわれているためか、この松の周りは大勢の人が落葉ひろいを始める。当然のごとく我々も探し、見事に三葉を見つけ財布に入れた方がいた。だが、その後に幸運を得たかは知らない。

秋の高野山は紅葉の名所でもある。例年の見頃は 10 月下旬から 11 月初旬と言われている。KUWV 近畿支部のサンマパーティー<sup>(※1)</sup>との日程調整により今回の日取りとなった。紅葉の盛りはやや過ぎたとは言え、壇上伽藍から高野山の入り口の大門（「六町」石）へ散策すると、道の両側に並ぶ寺院の庭先の鮮やかな紅葉や黄色く色づいたイチョウを楽しむことができた。夕日に映える大門の雄大さは、参詣に上がってきた人々を感動させるに十分であろう。この散策の中、妙に空が広いことに気づいた。よく見ると、電柱と電線がない。

(※1) 2017 年のサンマパーティーは前出の台風 21 号による施設被害のため中止となった。

景色が広く感じられ、気持ちの良いものである。また、カメラマンにとってはありがたいことだ。

宿坊の夕食は精進料理をいただいた。精進料理では野菜を主にして肉や魚を一切使わず、焼き物、揚げ物、酢の物、豆腐類、汁物などが基本で、がんもどき、高野豆腐、胡麻豆腐、野菜の天ぷら、野菜サラダ、白ご飯などがお膳に並ぶ。我々の年齢では腹一杯の量である。また、アルコール飲料もいただけたのは、左党にとってはうれしい限りであった。

壇上伽藍は日没するとライトアップされ、各建物が暗闇に浮き立って見ることができる。防寒具に身を包み近づくと、根本大塔が昼より大きく際立って見えた。中門の仁王様も陰影濃く迫力のある姿であった。

宿坊はお寺の棟続きにあり、内装は新しくされたが落ち着いた書院風であった。その特別和室と8畳和室を4部屋とを予約していた。特別和室は10畳と前室二間の広さがあり、全員が集まるのに十分であった。近況を話し、昔を話し、みかん(紀州産)やお菓子やお酒をいただき、夜の更けるのを忘れるほどであった。

## 11月14日

朝から雨が止まない。朝の勤行(ごんぎょう)が6時半から始まる。かなり冷え込むので防寒具を羽織って本堂の椅子に座る。目が慣れてくると数多くの釣灯籠が見えはじめ、厳かな雰囲気包まれる。やがて、ご住職の読経が本堂内に響き渡り、聞き入るうちに、きょう一日の活力を授かったような気持ちになった。

朝食もちろん精進料理である。読経や説法を聞いた後なのかもしれないが、この料理が格別に取りがたく、おいしく感じられた。皆さんの満足なお顔で集合写真を一枚パチリ。



今日は、車で金沢まで帰る人、大阪で美味しい食を訪ねる人、故郷に立ち寄っていく人、高野山をもっと堪能しようとする人にと別れて行動となった。



雨が降る中、金剛三昧院を訪ねた。しっとりと落ち着いた風情であった。ここは北条政子が夫の源頼朝の菩提を弔うために建立された。初めは禅定院と呼ばれたが、三代将軍実朝の菩提を弔うときに金剛三昧院と名付けられた。そして、幕府の力で堂塔の増建が進められ、写真後方の多宝塔(国宝)も造営された。

高野山には時の権力者や武将を祀った寺院や墓標や供養塔が数多く見受けられる。熊谷直実と平敦盛、武田信玄と上杉謙信、織田信長と明智光秀、徳川家と豊臣家、と歴史を彩った人達がここに眠る。これらをじっくり観て回るには少なくとも3泊4日の日程が要りそうである。

高野山の食で欠かせないものが胡麻豆腐。白胡麻と葛と水だけで作られている。深山からでる湧水を使い作る高野山の胡麻豆腐は絶品で人気がある。有名店の店内でいただく「ワサビ醤油」や「和三盆糖」の生胡麻豆腐は実に美味しかった。ただし、日持ちがしないので、保冷パックを持っていないと売ってくれないことには注意が必要だ。割高な保冷パックも売ってはいるが。

高野山の探訪組のうち男3人は、南東に約15km離れた立里荒神社(たてりこうじんしゃ)に向かった。ここは空海が高野山に大伽藍を開基するにあたって、繁栄・守護を祈ったといわれる。拝殿の軒に開けられた穴を、真直ぐ突き抜けている杉の大木が印象的であった。

来年2018年はKUWV創部60周年に合わせ北陸支部による一期一会の会となる。それでは、みなさん Auf Wiedersehen !